立石寺

RISSHAKUGI

閑かさや　岩にしみ入る　蝉の声

芭蕉主従が尾花沢ですすめられ、山寺を訪れたのは夏の暑い盛りでした。

麓の宿坊に宿を求め、山上山下の堂々を巡拝し、その荘厳美にうたれ『奥の細道』に名句名文が残されたことによって広く知られるようになりました。

山寺立石寺は、貞観2年（860年）慈覚大師によって開かれた比叡山延暦寺の別院で東北屈指の霊場となっています。1000段に及ぼうという石段を登っていくと、長い歳月を経た老杉のなかに幾つもの奇岩やお堂が点在し、山全体が景勝地になっています。さらに、南院地区には、山寺芭蕉記念館、後藤美術館、風雅の国があり、山寺の全容が一望視されます。

山寺芭蕉記念館

名勝山寺の素晴らしい眺望を堪能することができる南院跡に、建立された。芭蕉の墨跡、奥の細道関係資料などが鑑賞できる。研修室も使用できる（有料）。

山寺芭蕉像

東北の名刹として名高い山寺。奥の細道ゆかりのものとしては、蝉塚、芭蕉像等が佇み、往時を偲ばせる。

山寺立石寺

俳聖芭蕉ゆかりの東北の名刹。重要文化財の根本中堂をはじめ、幾つかの堂塔伽藍が点在する。

山寺立石寺秘宝館

立石寺の仏像や宗教資料が収蔵されている。また日本最古といわれる伝教大師像も保管されている。

【山寺の行事】
5月中旬　山王祭
8月初旬　夜行念仏
8月初旬　山寺磐司祭

交通／仙山線山寺駅より徒歩5分

大石田

ŌISHIDA

さみだれを　あつめてすずし　もがみ川

山寺での１日を楽しんだ芭蕉主従は、大石田の俳人高野一栄（平右衛門）に迎えられ、日和を待って最上川に遊び、新しい俳諧の指導にあたりました。芭蕉と地元の俳人が詠んだ歌仙「さみだれを」一巻が残されています。芭蕉は※「このたびの風流ここに至れり」と熱い想いを感じずにはいられませんでした。大石田は、かつて最上川舟運の河岸として栄えたところで、現在の町並みからもその繁栄ぶりがうかがえます。

また、本県上山市が生んだアララギ派歌人斎藤茂吉が戦後（昭和21年頃）約2年滞在し、こよなく愛したところとしても知られています。

※「今回の旅の風流は、この地元の人々の風雅においてきわまった」という意味。

あったまりランド深堀

最上川沿いの田園地帯にあり、サウナやジェットバス等の数種類のお風呂を満喫できる。宿泊施設「虹の館」も併設。

芭蕉句碑

乗船寺涅槃像

最上川舟運の繁栄をいまに伝える一つが釈迦涅槃像だ。京仏師の作で、2mを超える大身は全国でも珍しいもの。整ったお顔は、まるで微笑んでいるかのように穏やか。

聴禽書屋

歌人の齋藤茂吉が、疎開中に住んだ大石田の素封家二藤部家の離れ。名称は、庭内の木立を飛ぶ小鳥の声に因んだものとされている。隣接して歴史民俗資料館がある。

交通／奥羽本線大石田駅下車